

2年次選択科目 眼科臨床研修プログラム

1. 研修施設

獨協医科大学病院

2. 研修期間

1 か月～6 か月

3. 指導体制

指導責任者： 妹 尾 正 教授

主任指導医： 宮 下 博 行

4. 研修目標

総合目標	一般目標（G I O）
	眼科の診断学・治療学の基礎を学ぶ
	到達目標（S B O）
	眼疾患の臨床診断学を学ぶ 眼科の検査法を学ぶ 眼科治療学を实践する 眼外科学を实践する

基本的診察法	一般目標（G I O）
	教授/准教授/講師の診察補助医として外来に参加し、眼科の基本的診察法を修得する
	到達目標（S B O）
	眼疾患の診断学・治療学の基礎を学ぶ 眼科の基本的診察法（細隙灯顕微鏡、倒像鏡など）を習得する 屈折矯正視力検査の基本を学び、実践する 眼科理学的検査（接触式眼圧測定・涙道通水検査・角膜染色検査など）を实践する 眼底写真撮影・読影の基本を習得する 眼位・眼球運動・眼瞼・瞳孔運動の診察法を学び、実践する

基本的治療法 (外来)	一般目標 (G I O)
	眼科外来担当として、診断と治療に必要な知識を習得する
	到達目標 (S B O)
	眼疾患の処置 (点眼・眼軟膏・涙嚢洗浄など) を実践する 眼局所への注射療法 (球後注射・結膜下注射・硝子体注射など) を実践する 眼疾患の小手術 (麦粒腫切開・角結膜異物除去・マイボーム腺梗塞摘出など) を実践する 眼科レーザー手術 (網膜光凝固・後発白内障切開術など) を実践する

基本的治療法 (病棟)	一般目標 (G I O)
	病棟にて入院患者の診断と治療に必要な知識を習得する
	到達目標 (S B O)
	必要な諸検査を実施し、診断を確定する 治療計画をたて、実践する 眼科手術に助手として参加する 縫合術 (結膜縫合・強膜縫合・角膜縫合・眼瞼皮膚縫合など) を実践する 切開術 (結膜切開・強膜切開・角膜切開・眼瞼皮膚切開など) を実践する

カンファレンス 勉強会	一般目標 (G I O)
	カンファレンスや勉強会に参加し、的確に情報を交換して問題に対処できる
	到達目標 (S B O)
	手術検討会で、眼科手術の適応や術式を学ぶ 教授回診で、入院すべき疾患の適応、その治療方針、医学的管理法を学ぶ 症例検討会で臨床写真を用いて前眼部・後眼部の観察法、眼科学的診断法を学ぶ 適時主催される勉強会で、各専門分野の基礎や最新の知見を学ぶ 豚眼を用いた手術実習 (ウェットラボ) を、月に 1~2 回開催するので、これに参加する

5. 経験が望まれる症状

視力障害	飛蚊症
眼痛	複視・眼球運動障害
充血・眼脂	視野障害

6. 経験が求められる疾患・病態

屈折異常 (近視、遠視、乱視)	緑内障
角結膜炎	糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化
白内障	

7. 研修の方法

1) 外 来	教授/准教授/講師の診察補助医として外来に参加する
2) 病 棟	指導医のもとに、入院患者の受け持ち医として診断・治療計画をたて、実践する 指導医のもとに眼科手術を学ぶ
3) カンファレンス等	手術検討会・教授回診・症例検討会・勉強会・ウェットラボに出席し学習する
4) 当直業務	月に3回(平日2回、日曜または祝日1回)程度、上級医とともに当直業務にあたる

8. 週間予定

	朝	午前	午後	夕方
月		外来または病棟	屈折矯正手術外来	
火		外来または病棟	ぶどう膜外来	医局会 手術検討会
水	教授回診	外来または病棟	未熟児外来 黄斑外来 ロービジョン外来	
木		外来または病棟	角膜外来 斜視・弱視外来	
金		外来または病棟	前眼部解析外来	
土	症例検討会	病棟		

※週に1~2回、教授/准教授の診察補助医として午前の外来に参加する

※1か月の研修期間中に、午後の専門外来を各1回~2回ずつ参加する

※適宜、指導医のもとに、受持ち患者の診察・処置・手術に参加する